

科目名	行動分析学特殊研究	担当者	マナベ 眞邊 カズチカ 一近	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>ヒトの行動は、実体験による学習、観察による学習および教示による学習により変容します。この教示による学習による行動変容は、言語的に記述された行動随伴性に従う行動という意味で、ルール支配行動とも呼ばれ、ヒトに特有で効率的な学習を可能にしています。一方、誤ったルールの提示により誤った行動が形成・維持される場合もあります。行動分析学特殊研究では、自身の誤った言語的ルールにより形成された病理である鬱の形成メカニズムの基礎として注目されている「刺激等価性」の理解を目的とします。</p>		
到達目標	<p>以下の点を到達目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 刺激等価性の定義の習得</li> <li>2) 刺激等価性研究の発展史の理解</li> <li>3) 刺激等価性研究における基礎と応用の関連の理解</li> <li>4) 刺激等価性の臨床への展開の理解</li> </ol>		
学修方法	<p>まずは、課題に従って基本教材と参考書を読み、草稿を仕上げ提出します。これに対して、修正・追記が必要であるかどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。</p>		
スケジュール	<p>以下のスケジュールで学習を行います。</p> <p>前期：刺激等価性の定義と研究史</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 刺激等価性の定義の理解</li> <li>2) 刺激等価性研究の研究史の理解</li> </ol> <p>後期：刺激等価性研究の現在における意義</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 刺激等価性の基礎研究と応用研究の理解</li> <li>2) 刺激等価性の臨床場面への展開の理解</li> </ol>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	<p>下記の点について評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？</li> <li>2) レポート提出システム (manaba) に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？</li> <li>3) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？</li> <li>4) 「レポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？</li> </ol>
	平常評価	0%	
履修者への要望	<p>レスポナデント条件づけや、オペラント条件づけ、ABC分析など、行動分析学の基礎はすでに学習していることが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： Murray Sidman 教材名： “ <i>Equivalence Relations and Behaviour: A Research Story</i> ” ペーパーバック ISBN 978-0-96-233116-9 Cambridge Center for Behavioral Studies 1994年
	Stimulus Equivalence (刺激等価性) は、ヒトの言語行動や言語に起因する病理 (鬱など) を理解する上で重要な概念の一つでありであり、また研究ツールでもある。本書は、刺激等価性を最初に提唱し実証してきた著者が、刺激等価性の研究史をまとめた著書であり、刺激等価性を理解する上で欠かせない一冊である。
参考図書	武藤崇『アクセプタンス&コミットメント・セラピーの文脈 臨床行動分析におけるマインドフルネスな展開』 (ブレーン出版 (株), 2006年) ISBN:978-4-89-242836-4 3,500円+税 ジェームズ・E・メイザー『メイザーの学習と行動』 (二瓶社, 1999年) ISBN:978-4-93-119968-2 4,000円+税 レイノルズ (浅野俊夫訳) 『オペラント心理学入門: 行動分析への道』 (サイエンス社, 1978年) ISBN:978-4-78-190043-8 1,748円+税 ルバート・トルートマン著 (佐久間徹・谷晋二監訳) 『はじめての応用行動分析』 (二瓶社, 1992年) ISBN:978-4-93-119915-6
履修上のポイント	刺激等価性の定義と歴史を学ぶことを主眼として下さい。
レポート課題 1	刺激等価性とは何かについて、その定義、手続きなどの研究方法についてまとめよ。 <b>留意点</b> ：テキストに掲載されている内容に基づいて、刺激等価性の定義についての概説を書いて下さい。
レポート課題 2	刺激等価性研究の歴史について概説せよ。 <b>留意点</b> ：刺激等価性研究における障害児や動物を対象とした研究の歴史についての概説を書いて下さい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： Murray Sidman 教材名： “ <i>Equivalence Relations and Behaviour: A Research Story</i> ” ペーパーバック ISBN 978-0-96-233116-9 Cambridge Center for Behavioral Studies 1994年
	Stimulus Equivalence (刺激等価性) は、ヒトの言語行動や言語に起因する病理 (鬱など) を理解する上で重要な概念の一つでありであり、また研究ツールでもある。本書は、刺激等価性を最初に提唱し実証してきた著者が、刺激等価性の研究史をまとめた著書であり、刺激等価性を理解する上で欠かせない一冊である。
参考図書	武藤崇『アクセプタンス&コミットメント・セラピーの文脈 臨床行動分析におけるマインドフルネスな展開』 (ブレーン出版 (株), 2006年) ISBN:978-4-89-242836-4 3,500円+税 ジェームズ・E・メイザー『メイザーの学習と行動』 (二瓶社, 1999年) ISBN:978-4-93-119968-2 4,000円+税 レイノルズ (浅野俊夫訳) 『オペラント心理学入門: 行動分析への道』 (サイエンス社, 1978年) ISBN:978-4-78-190043-8 1,748円+税 ルバート・トルートマン著 (佐久間徹・谷晋二監訳) 『はじめての応用行動分析』 (二瓶社, 1992年) ISBN:978-4-93-119915-6
履修上のポイント	刺激等価性研究の現在での意義について学習することを目的として下さい。
レポート課題 1	刺激等価性研究を例として取り上げ、行動分析学における基礎と応用の関連性について概説せよ。 <b>留意点</b> ：応用行動分析学は、基礎研究から得られた知見の上に成り立っています。基礎研究の重要性が分かるようにまとめて下さい。
レポート課題 2	参考図書であげているアクセプタンス&コミットメント・セラピー (ACT) への展開について概説せよ。 <b>留意点</b> ：関係フレーム理論における刺激等価性の位置づけについて概説し、機能等価性についても言及して下さい。